

公開実用平成 4-74000

④日本国特許庁 (JP)

④実用新案出願公開

④公開実用新案公報 (U)

平4-74000

④Int. Cl.

D 21 H 27/20
B 32 B 5/18
D 21 H 19/44
27/02
27/30
27/34

登別記号

庁内整理番号

④公開 平成4年(1992)6月29日

8118-3B D 21 H 5/00
8118-3B 5/02
9158-3B 1/02
9158-3B 1/28
9158-3B 1/08

A

A

Z

審査請求 有 請求項の数 2 (全 頁)

④考案の名称 硫紙

④本願 平2-114810

④出願 平2(1990)10月31日

④考案者 西川毅 岐阜県大垣市長松町847

④考案者 森茂樹 岐阜県揖斐郡池田町小寺100

④出願人 丸山工業株式会社 岐阜県安八郡神戸町大字安次700番地

④代理人 弁理士 中尾房太郎

20006032-012302

BI 000653

BEST AVAILABLE COPY

明細書

1. 考案の名称

壁紙

2. 実用新案登録請求の範囲

- ① 難燃紙(1)の表面に発泡または非発泡ポリ塩化ビニル樹脂層(2)を層着し、該樹脂層(2)に熱可塑性繊維よりなる布(3)を一体的に接合し、その表面にシボ模様(4)を形成したことを特徴とする壁紙。
- ② 前記熱可塑性繊維よりなる布(3)は、織布あるいは不織布で形成され、その表面に図柄(5)を施してある請求項1記載の壁紙。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は熱可塑性繊維を接合したシボ模様を有する立体感のある壁紙に関するものである。

(従来の技術)

従来、高級壁紙は、難燃紙と柄織物とを接着剤を用いて貼合せたもの、あるいは難燃紙と不織布とを接着剤やホットメルト接着剤などを使用して

1106

BI 000654

- 1 -

実開4-74000

貼合せたものであった。

これらの繊維性布を接合した壁紙は、ソフト感があり落着きのある雰囲気をかもし出すことから多く使用されている。

(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら、この壁紙は、施工時に柄合せのために切断することがしばしばあり、切断すると繊維糸のほつれ現象が生じることがあった。

また、施工後においても、表面との接触および摩擦によって毛羽立ちが発生し、外観上不体裁となる問題点があった。

本考案はこのような問題点を解消したもので、施工時および施工後においても、表面の繊維性布の糸ほつれや毛羽立ちを防止でき、耐摩耗性に優れた壁紙を提供するものである。

(問題点を解決するための手段)

上記目的を達成するため、本考案の壁紙は、難燃紙(1)の表面に発泡または非発泡ポリ塩化ビニル樹脂層(2)を層着し、該樹脂層(2)に熱可塑性繊維よりなる布(3)を一体的に接合し、その表面にシボ模

BI 000655

1107

様(4)を形成したものである。

また、前記熱可塑性繊維よなる布(3)は、織布あるいは不織布で形成され、その表面に図柄(5)を施したものである。

本考案に用いる難燃紙(1)は、60～80g／m²の難燃処理の施したもの用いる。

難燃紙(1)の表面に層着する合成樹脂層(2)は柔軟性、弾力性などから発泡または非発泡ポリ塩化ビニル樹脂が適している。この塩化ビニル樹脂には必要に応じて可塑剤、安定剤、着色剤等の添加剤が添加される。

熱可塑性繊維よりなる布(3)としては、アクリル系またはポリ塩化ビニル系のフィラメント糸およびステーブル糸で編織成された織布や不織布が使用される。また、アクリル系またはポリ塩化ビニル系繊維とナイロン系やポリエステル系繊維との混合した織布や不織布でもよい。これらの織布、不織布を構成するフィラメント糸やステーブル糸は適宜着色されていて、その着色は単色のものでもよいし、2色以上であってもよい。

BI 000656

- 3 -

1108

熱可塑性繊維よりなる布(3)を塩化ビニル樹脂(2)を介して難燃紙(1)と一体的に接合するには、100～160℃温度で貼合せると同時にエンボス加工でシボ模様(4)を付ける。さらに、この表面に凹凸(5)を施すのには、ロータリースクリン機またはグラビア機で付けることができる。

(作 用)

壁紙の表面が熱可塑性繊維よりなる布(3)を用いているので、熱接着で接合一体化でき、従来のような接着剤が不要となる。また、表面をシボ模様に形成することにより、表面の摩擦強度を向上させて、該表面の毛羽立ちをなくすと共に耳部の糸ほつれをなくすことができる。

(実 施 例)

以下、本考案の実施例を示す図面について説明する。

(実施例 1)

70g/m²の難燃処理された難燃紙(1)に、0.1mmの発泡ポリ塩化ビニルペースト(2)を塗布し、乾燥して基材とし、つぎに、熱可塑性のアクリル系不

20006087-022002

BI 000657

1109

- 4 -

織布(3)を、発泡ポリ塩化ビニル樹脂層(2)と150 °Cで加熱加圧して難燃紙(1)と一緒に接合すると同時に、エンボスロールで不織布(3)の表面にシボ模様(4)を付けた。得られた壁紙は凹凸感に富む立体感のある壁紙となった。

(実施例 2)

実施例 1 で用いた基材に、着色された熱可塑性アクリル纖維と、ナイロン又はポリエステル系纖維が混紡してなる不織布(3)を、ポリ塩化ビニル樹脂層(2)と150 °Cで加熱加圧して難燃紙(1)と一緒に接合すると同時にエンボスロールで不織布(3)の表面にシボ模様(4)を付けた後、ロータリースクリン機でシボ模様(4)の凹凸部に適宜の凹凸(5)を付した。得られた壁紙は凹凸感に富む立体感のある壁紙となった。

〔効 果〕

本考案は、難燃紙(1)の表面に発泡または非発泡ポリ塩化ビニル樹脂層(2)を層着し、該樹脂層(2)に熱可塑性纖維よりなる布(3)を一緒に接合し、その表面にシボ模様(4)を形成したものであるから、

BI 000658

1110

- 5 -

熱接着で貼合せができ、接着剤が不要となりその接合も強力になり、耳部の糸ほつれがなくなる。また、表面をシボ模様(4)に形成してあるから、摩擦強度が向上し、施工後の接触および摩擦によつても毛羽立ちがなく外観が美麗である。

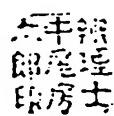
また、熱可塑性繊維よりなる布(3)の表面に図柄(5)を施すことにより、一層雅趣に富んだ美麗で凹凸感に富む立体感のある壁紙となる。

4. 図面の簡単な説明

第1図および第2図は本考案の壁紙の一例を示す断面図である。

(1)…難燃紙、(2)…塩化ビニル樹脂層、(3)…熱可塑性繊維、(4)…シボ模様、(5)…図柄。

実用新案登録出願人 九山工業株式会社

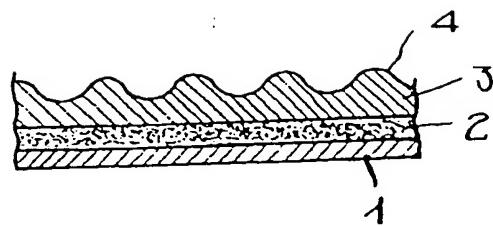
代理人弁理士 中尾房太郎


BI 000659

1111

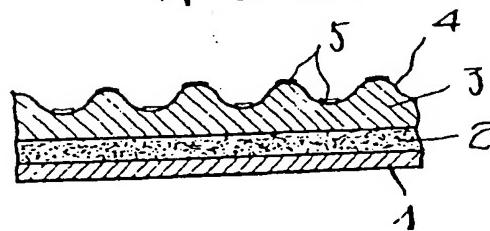
- 6 -

第1圖



600006087-012302

第2圖



BI 000660

代理人弁理士 中尾房太郎

1112+1実開4-74

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

THIS PAGE BLANK (USPTO)